

# 第26回 柳波賞 受賞作品集

浅间山 林柳波

可愛い童謡曲集第一編より

もつくりくく 浅间山 あさまやま

いつでもむくく 白い煙 しろけむ

たれかお山に ゐるかしら

煙草をすつて ゐるかしら たはこ

もつくりくく 浅间山 あさまやま

時々灰色 ゆれ煙 ときぐはいろ けむり

誰かお山に ゐるかしら だれ

ごはんをたいて ゐるかしら

もつくりくく 浅间山 あさまやま

毎晩火を吐く 浅间山 まいばんひ は あさまやま

誰かお山に ゐるかしら たれ

たき火にあたつて ゐるかしら



群馬県沼田市・沼田市教育委員会

# はやし 林 柳 波 (詩人)

1892年(明治25年)、群馬県沼田市材木町に生まれる。本名は照壽<sup>てるひさ</sup>。沼田尋常小学校高等科在学中に、村上鬼城<sup>きじょう</sup>に俳句を学ぶ。卒業後、里次<sup>さとじ</sup>(長兄)を頼って上京。1910年(明治43年)に明治薬学校(現・明治薬科大学)を卒業し、同年薬剤師国家試験に合格する。のちに明治薬学校の講師、図書館長を務める。

1918年(大正7年)、童謡運動が盛んとなり、童謡詩人の野口雨情<sup>うじょう</sup>の影響で詩の制作に取り組む。唱歌、童謡、民謡、校歌など1,000余編の作品を遺し、代表作に、「おうま」「ウミ」「うぐいす」「スキーの歌」がある。ほか、詩集「木蓮華」「水甕」「山彦」を出版し、郷土や母を詠った童謡・民謡等が多数載っている。

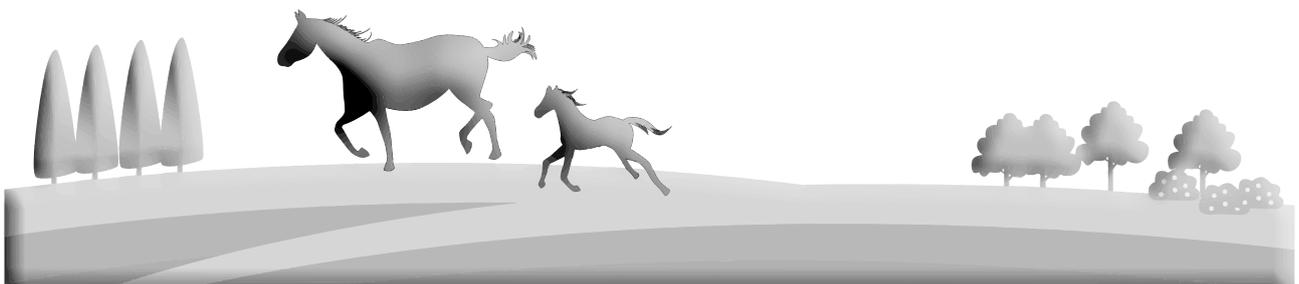
国民学校教科書編集委員、音楽著作権協会常務理事、日本詩人連盟相談役等で活躍し、1972年(昭和47年)に勲四等瑞宝章を受賞する。

1974年(昭和49年)82歳没。1989年(平成元年)沼田市名誉市民に顕彰された。



## 【柳波賞】

本市名誉市民で童謡作詞家である林柳波の功績を顕彰するため、童謡詩を一般公募するもの。一般の部・小中学生の部で構成され、最高賞から順に、柳波賞・優秀賞・佳作を決定する。



## 柳 波 賞

### 麦わら帽子

平 正夫

一 麦わら帽子 麦わら帽子

麦の匂いが しているね

麦が実った 麦畑

風が運んだ 麦の風

麦の匂いの 麦わら帽子

二 麦わら帽子 麦わら帽子

海の匂いが しているね

海で遊んだ 夏の日

波のしぶきに 濡れた風

海の匂いの 麦わら帽子

三 麦わら帽子 麦わら帽子

壁にかかって いつからか

麦と潮の香 消えたけど

遠いあの日は そのまんま

残る思い出 麦わら帽子

## 一般の部 優秀賞

### あくび

森水 陽一郎

あくびが ひとつ とびだした

あっちも こっちも みなあくび

つたわったのかな このきもち

くすくす えへへ てれわらい

またまた おおきなあくびでた

あたまた うえから グワーンと

くじらの くもが おおあくび

にじの ふんすい すてきだね

あのこも とおくで みるかな

はしをわたった そのさきで

みんな ぼかんと くちあけて

あくび わすれて そらみてた

## 一般の部 佳作

### 大きなビワの木

大きなビワの木 立ってるよ  
寒くなるころ花が咲き  
メジロがいつぱい飛んできて  
チイチイチイチ蜜をすう

大きなビワの木 森のよう  
はたけの麦のうれる頃  
ビワの実いつぱい明るむよ  
はやくのぼって食べたいな

大きなビワの木 のぼったよ  
ゆーらりしなる枝の先  
いちばん大きなビワの実は  
母ちゃんにとってあげましょう

大きなビワの木 てっぺんは  
村の景色がよく見える  
ビワの実みーんな食べつくし  
ほんとの夏がやってくる



高橋嬉文

### よるのていぼう

大村 想

父がつりざおふりぬけば  
ウキはくらやみにすいこまれ  
ちゃぽんと水の音ひとつ

まねしてぼくもぶんとふり  
しゆるしゆる糸がのびていき  
ちゃぽんと水の音ひとつ

それからずっとまったけど  
さおはすこしもしゃべらない

きつと魚もいまごろは  
わかめのふとんでねむってる

だんだんぼくもねむたくなって  
よるのそらを見あげたら  
星はたくさんおよいでる

びくがしょんぼりしてるから  
星ひとつだけいれてかえろう

# 一般の部 佳作

夏がいた

芳山 登

むぎわらの  
ひさしのかげの はながしら  
あせが つぶつぶ 夏がいた  
のきしたに  
たらいでひえて うかんでた  
あかや みどりは 夏やさい  
ひるねして  
めぎめたごこの ひなたへと  
かげを おとした 夏のくも  
夏がいた そばにいた たしかに  
いた  
ゆうだちが  
あがったそらに ながれぼし  
きみの ひとみも ひかっていた

ことばのちから

池田 博

すがたも かたちも ないけれど  
ことばは ちからを もっている  
やさしい ことばは あたたかく  
つれない ことばは うそさむい  
はげしい ことばは ちちこまり  
きびしい ことばは ひきしまる  
ほめられ ことばは うれしいし  
はげます ことばは ゆうきわく  
いじわる ことばは はらがたち  
おだてる ことばは くすぐったい  
すがたも かたちも ないけれど  
ことばは おおきな ちからもち

綿毛さん

那 由 多

ふうふう飛んでけ綿毛さん  
風が来ないと飛べないね  
私が吹いてあげるから  
どこかで咲いてねまた来年  
ふわふわ飛んでく綿毛さん  
学校のほうへ飛んでった  
私は来年一年生  
きっと会えるね校庭で  
きのうはたんぽぽ今日綿毛  
変身上手なたんぽぽさん  
見えるかたちは変わっても  
命は続いていくんだね  
私のじいちゃん死んだけど  
綿毛はしっかり飛ばしたよ  
だから私がいるんだね  
私も種になるんだね

## 小中学生の部 優秀賞

水族館

峯川芽依

夏休み 家族で行った水族館

クラゲは光る キラキラと

イルカは空を飛ぶように

水の中で自由を描く

水槽の底、揺れる影

深海の夢が

透明なガラス越しに

昼と夜を見つめる

## 小中学生の部 佳作

ねこのにくきゅうピンク

見城愛未

足の先くるん

ねこの足くるん

くるんとした足をのばすと

でてくるにくきゅうピンク

このこのにくきゅうピンク

でも外から帰ってくると

にくきゅうはまっくら

おなかもまっくら

なんでかという外にでてねっころがるから

ねこがねっころがる

ねっころがってにくきゅうまっくら

じぶんでなめてにくきゅうピンク

ねこのにくきゅうピンク

## 小中学生の部 佳作

ふうせんとぼく

茂木廉晴

まずはわたしがじこしようかい

好きなものはきれいな空気

大の苦手は鳥のくちばし

つつかれたら飛べなくなっちゃう

わたしのゆめは月まで行くこと

だからしっかりしばっておくれ

こんどはぼくがじこしようかい

好きなものはカレーライス

大の苦手はなす、ピーマン

苦くてなかなか食べられない

ぼくのゆめは宇宙に行くこと

いっしょに月まで行きたいね

かくれんぼ

富澤遥花

かくれんぼ

かくれんぼ

おにぎりの中から

うめぼしみつけたよ

かくれんぼ

かくれんぼ

おみそしるの中から

なすみつけたよ

かくれんぼ

かくれんぼ

たんぼぼの中から

てんとう虫みつけたよ

かくれんぼ

かくれんぼ

トンネルの中から

汽車みつけたよ

かくれんぼ

かくれんぼ

おかあさんの中から

やさしさみつけたよ

かくれんぼ

かくれんぼ

おふとんの中から

おとうとみつけた

## 小中学生の部 佳作

トカゲ

田中嵩鳥

チヨロ チヨロ 走るトカゲ

チヨロ チヨロ チヨロ チヨロ

走る 走る

水てきをなめてひと休み

パタツと足音したとたん

草むらの中 すばやく かくれる

キラキラ 光る お日さまの下

まぶたをとじて日なたぼっこ

青い背中を光らせて

長いしっぽをくねらせて

のびのび いきいき 生きている

自分の世界を生きている

玉原湿原

斉藤栞波

たくさんの木々

緑いっぱい

葉っぱがいっぱい

足元は葉っぱや木の枝でつくられた

ふかふかのじゅうたん

雨が降って

雪が降って

ふかふかのじゅうたんをたくさん濡らして

お水をどんどん綺麗にしてくれる

とっても冷たくてキラキラなお水

玉原湿原

みんなで守っていかないとね

## 小中学生の部 佳作

沼田祭

星野陽多

沼田の祭が やってきた

屋台もたくさん 出ているよ

みこしをかつごう 暑さもふきとぶ

ワッシヨイ ワッシヨイ ワッシヨイと

らくがきせんべい チョコバナナ

食べ物いっぱい うれしいな

友達とたたこう まんどの太鼓

ピーヒャラ ドンドン テレックテン

天狗が一番 重たいよ

みんなでかつげば 重くない

肩が痛いが 気合でかつぐ

ワッシヨイ ワッシヨイ ワッシヨイと

四季のトンぼ

星野莉夢

眠っている 冬のとんぼ

地面は雪で真っ白に

雲はぼやけてしゅわしゅわに

そろそろ顔を出すかな 春のとんぼ

辺りは桜の木でいっぱい

わたぐもが青空の中にぽつぽつと

やっと飛んだ 夏のとんぼ

強い日差しの中たくさん飛ぶ

少なくなっていく 秋のとんぼ

木から葉が落ち日がしずむ

うろこ雲が空一面に

眠っている 冬のとんぼ

天狗

星野叶多

赤いお顔に長い鼻

大きな羽で空を飛ぶ

うちわであおぐぞ

天狗さん

うどんとお酒が大好きで

苦手なものは水とサバ

苦手もあるよ

天狗さん

人をからかい楽しむけれど

実は心が優しいよ

みんな大好き

天狗さん

## 講 評



### 審査員 高 階 紀 一

柳波賞「麦わら帽子」は麦わら帽子を題材に、遠い夏の日への郷愁が簡潔な文体で描かれている。「波のしぶきに 濡れた風」などの表現も巧みで、童謡詩としての完成度も高い。

優秀賞「あくび」は2連目の「雲」があくびをするという発想がおもしろい。それを受けた3連目の飛躍によって余韻を感じる作品となっている。佳作の「大きなビワの木」はビワの生産地の情景だろうか？ラスト2行に惹かれた。「よるのていぼう」は父と夜釣りをしている情景が描かれ、ラスト2行の着地が見事。「夏がいた」は夏を擬人化した発想はいいが、ラスト3行が甘く類型的で惜しまれた。「ことばのちから」は正に言葉には力があると訴える作品。テンポが良く、読んでいて歌になりそう。「綿毛さん」はたんぼの綿毛を通して「命のつながり」を描いた後半に惹かれた。

小中学生の部・優秀賞「水族館」は、水族館の様子を幻想的に描き、作者の感性の豊かさを感じた。また中学生とは思えぬ巧みな表現にも感心させられた。「ねこのにくきゅうピンク」はただただかわいい。きっとこの猫のことが大好きなんだろうなあ。「ふうせんとぼく」は、

「風船とぼく」が互いに自己紹介し合うという設定がおもしろい。「かくれんぼ」は、何かに隠れて見えないものが「かくれんぼ」しているという発想がユニーク。「トカゲ」はトカゲの生態がよく観察されて描かれている。ラストの1行も奥が深い。「玉原湿原」は湿原の美しさを描きつつ、自然環境保護の大切さにも心が配られている。「沼田祭」は祭の楽しさがテンポの良い言葉の運びと共に伝わってくる。「四季のとんぼ」はとんぼを通して四季の移ろいがうまく描かれている。「天狗」は怖い天狗にも苦手なものがあるんだと初めて知った。でもどうして「水とサバ」何だろう？

#### 審査員略歴

詩 人 日本現代詩人会、日本文芸家協会 各会員  
詩誌「ガーネット」主宰  
詩 集 「早く家へ帰りたい」「空への質問」「水の町」  
ハルキ文庫「高階紀一詩集」等  
戯 曲 「雲雀の仕事」他  
第1回キャビン戯曲賞入賞（「ムジナ」）  
第40回H氏賞受賞（「キリンの洗濯」）  
第4回三越左千夫少年詩賞受賞（「空への質問」）  
第8回三好達治賞受賞（「いつか別れの日のために」）  
第21回丸山薫賞受賞（「千鶴さんの脚」）



### 審査員 黒 木 瞳

今年は、久しぶりに沼田市での審査となった。美しい山並みを眺めて心も洗われる。今年の柳波賞は「麦わら帽子」に決まった。心に響く詩が多い中、「麦わら帽子」は、柳波賞にふさわしい詩だった。郷愁が漂う。一

見平凡な詩にも読み取れるけれど、読めば読むほど味のある詩だ。優秀賞は「あくび」、ユーモラスな内容で笑みが溢れた。「大きなビワの木」は、よくまとまっている作品だと思った。「よるのていぼう」は、父と子の魚釣りから生まれた詩。情景が浮かぶ私の好きな詩だ。「夏がいた」は、“めざめたごごの ひなたへと かげをおとした なつのくも”の表現は秀逸。「ことばのちから」は、言葉の存在を意識した思いが伝わってきた。「綿毛さん」のラスト4行の力強さには感動。小中学生の部の優秀賞は、「水族館」。作者の感性が光る詩。ラスト1行は秀逸。「ねこのにくきゅうピンク」は最高に面白い。タイトルがいい。「ふうせんとぼく」は、着眼点がいいし、夢に溢れる未来が見えた。読後感がとてもいい。「かくれんぼ」は、“おにぎりの中からうめぼしみつけたよ”から始まったので、この詩に釘づけになった。その感性を今後も大切にして欲しいな。「トカゲ」は、何を言いたかったのか？それは、ラスト1行に作者の気持ちが反映していた。うまい！「玉原湿原」は、地球に優しい詩だ

などと思った。玉原の様子がよく分かるし作者の優しい気持ちも伝わってきた。「沼田祭」は、軽快でリズムカル。地元を愛しているからこそこの詩だ。他にも、ふるさとを思う気持ちに溢れる詩が多く、詩を通して、応募なさった方々の、日々の感謝の気持ちが伝わってきた。来年の詩を今から楽しみにしている私である。

#### 審査員略歴

女優・映画監督・舞台演出家  
詩 集 「長袖の秋」  
「夜の青空」  
「恋のちから愛のススメ」  
「夢の水たまり」  
翻訳絵本 「すきなのだあれ？」  
「たからものさがし」  
エッセイ 「わたしが泣くとき」「夫の浮わ気」  
「モン・モエ」  
「もう夫には恋はできない」  
「ひとみごちて」「私の場合」  
「母の言い訳」（第23回日本文芸大賞エッセイ賞受賞）

## 講 評



### 審査員 岡田 芳保

#### 柳波賞

「麦わら帽子」麦の香りが風によって身体にしみ込んでくるよう。時が過ぎても心には海の香りや風景が麦わら帽子に投影され、歌いたくなるよう。

#### 優秀賞〈一般の部〉

「あくび」子供目線でのリズム感あふれる表現、そして、ひらがなでうまくまとめあげている。くすくす／えへへといった音を取り入れているのも新鮮で絵本のような情景描写もうまくいっている。

#### 佳作賞

「大きなビワの木」村の景色が一望できるビワの木。濃くしっかりした葉の間に橙色の実が豊かに実り食卓に盛られた笑い声が聞こえてくるよう。

「よるのていぼう」さおはすこしもしゃべらない、そして、最後の2行の表現がロマンチック効果。

「夏がいた」夏がいた／という表現がユニーク。

「ことばのちから」ことばの捉え方がうまい。現代社会でのことばの大切さが伝わってくる。

「綿毛さん」風に吹かれる綿毛の表現がうまい。自然界の、そして生命の讃歌のような作品。

#### 優秀賞〈小中学生の部〉

「水族館」水族館の別世界の静けさや光の美しさが伝わってくる。深海のイメージを大きな水槽の中にあぶり出す感性は鋭く、最後の1行の／昼と夜を見つめる／が効果的で印象深い。

#### 佳作賞

「ねこのくきゅうピンク」ねこが家族の一員になっていて愛情が伝わってくる。

「ふうせんとぼく」ふうせんに夢をのせて風に吹かれて小さく宇宙へ飛んで行く楽しい作品。

「かくれんぼ」遊びとしての「かくれんぼ」をこんな表現をするのかとアイデアが楽しい。家族の温かさが伝わってくる。

「トカゲ」トカゲの生態がうまく表現されている。チョロ チョロ／トカゲの動きがうまい。

「玉原湿原」湿原の様子が伝わってくる。自然の豊かさを守るという大切なメッセージがある。

「四季のとんぼ」四季の移り変わりがとんぼをとおして美しく表現されている。

「沼田祭」沼田祭の象徴ともいえる天狗はみんなに愛され人々の賑やかな声が町中に響き渡る様子が見えるよう。

「天狗」迦葉山から町を見下ろしみんなの安全を守ってくれている大天狗。夏を待ち望んでいるのは大天狗だけでなく、みんなも心待ちにしている。その様子がとても伝わってくる。

#### 審査員略歴

詩人 現代書表現作家

詩画集 〈隅屋夢幻〉の16のはなの詩による版画集  
(セリグラフ：金子英彦) その後、縮刷版で刊行

詩集 「光・風・空」「出口なし」「愛の曇気楼」

展覧会 個展「夢幻の書展」(東京)

「住谷夢幻」3.11 フクシマ(ウズベキスタン)

「住谷夢幻」〈書表現の世界〉〈墨のアフォーリズム〉

〈墨のメタファー〉

〈書で詩的宇宙を書き込みたい〉

〈墨の純粋なことばに狂喜する〉

グループ展「沙鷄会展」「楯円展」

第6回 NHK 関東甲信越地域文化賞受賞

元群馬県立図書館長 元群馬県立土屋文明記念文学館長



### 沼田市長 星野 稔

『柳波賞』は、本市の名誉市民で、童謡作詞家である林柳波先生の功績を顕彰するため、平成11年に創設されました。今年で第26回を迎えた『柳波賞』は、全国から1,194編もの応募をいただきました。作品をお寄せいただいた皆さま、また、公募に際しご協力いただいた皆さまに、心からお礼申し上げます。

審査に際し、個性溢れる作品の数々を拝読させていただき、皆さんの心に浮かんだ情景や思いが作品に伸びやかに表現されていると感じました。

柳波賞の「麦わら帽子」は、麦わら帽子を通して作者の大切な思い出をたどる旅に出ているような気持ちになりました。3連目で、麦わら帽子から麦と潮の香りが消え、麦わら帽子そのものが夏の思い出の象徴となったのだと感じました。温かさや心寂しさを感じる作品でした。一般の部優秀賞の「あくび」は、幼い子ども目線で書かれており、周りにいる友達から空のくじらの雲、くじら

の雲から遠くにいるあのこへの視線誘導が巧みな作品だと感じました。小中学生の部優秀賞の「水族館」は、水族館の静と動を上手に作品にまとめたと感じました。大水槽の明るい上部と仄暗い下部を昼夜で例えた感性は素晴らしいと思います。

今回の小中学生の部の作品は、家族や地域など身近な人との関係や思い出を大切にしている作品が多く見られました。柳波賞の受賞作品をきっかけに、身近な人々や自分の暮らす地域との繋がりを、改めて見つめ直す機会にいただければ幸いです。

結びに、大変お忙しい中、沼田市までお出かけいただき、ご審査いただきました高階一先生、岡田芳保先生、黒木瞳先生をはじめ、関係皆さま方へ心より敬意を表し、感謝申し上げます。今後も、ふるさと沼田の魅力や林柳波先生の素晴らしい功績を全国に発信していきたいと考えておりますので、引き続き皆さまのご協力を賜りますとともに、たくさんの素晴らしい作品が寄せられることを祈念いたしまして講評といたします。

# 第26回「柳波賞」入賞者名簿

## ◎柳 波 賞

(敬称略)

区 分	作 品 名	住 所	氏 名
柳波賞	麦わら帽子	千葉県市川市	平 正 夫

## ◎一 般 の 部

区 分	作 品 名	住 所	氏 名
優秀賞	あくび	千葉県いすみ市	森 水 陽 一 郎
佳 作	大きなビワの木	神奈川県川崎市	高 橋 嬉 文
佳 作	よるのていぼう	東京都江東区	大 村 想
佳 作	夏がいた	三重県伊勢市	芳 山 登
佳 作	ことばのちから	佐賀県三養基郡みやき町	池 田 博
佳 作	綿毛さん	東京都小金井市	那 由 多

## ◎小中学生の部

区 分	作 品 名	学校名・学年		氏 名
優秀賞	水族館	沼田市立沼田南中学校	中2	峯 川 芽 依
佳 作	ねこのにくきゅうピンク	沼田市立多那小学校	小3	見 城 愛 未
佳 作	ふうせんとぼく	沼田市立川田小学校	小5	茂 木 廉 晴
佳 作	かくれんぼ	沼田市立沼田北小学校	小2	富 澤 遥 花
佳 作	トカゲ	沼田市立沼田小学校	小6	田 中 嵩 鳥
佳 作	玉原湿原	沼田市立沼田東小学校	小2	斉 藤 栞 波
佳 作	沼田祭	沼田市立沼田東小学校	小4	星 野 陽 多
佳 作	四季のとんぼ	沼田市立沼田東中学校	中1	星 野 莉 夢
佳 作	天狗	沼田市立沼田東小学校	小6	星 野 叶 多

## ◎地域別応募者数 (一般の部・小中学生の部)

北海道	9	青森県	3	岩手県	3	宮城県	7	秋田県	3	山形県	7
福島県	11	茨城県	11	栃木県	3	群馬県	733	埼玉県	36	千葉県	23
東京都	61	神奈川県	38	新潟県	5	富山県	4	石川県	15	福井県	4
山梨県	3	長野県	5	岐阜県	8	静岡県	20	愛知県	28	三重県	5
滋賀県	4	京都府	8	大阪府	38	兵庫県	18	奈良県	5	和歌山県	1
鳥取県	1	島根県	3	岡山県	6	広島県	7	山口県	3	徳島県	2
香川県	4	愛媛県	7	高知県	1	福岡県	15	佐賀県	4	長崎県	1
熊本県	6	大分県	3	宮崎県	2	鹿児島県	3	沖縄県	7	国外	0

《応募総数 1,194》